

文久四年二月十二日より文久四年二月十四日まで

P8311089right

鮑、長芋煮付一皿、ふきのとう（海がき得る油そへ）一皿魚切身吸物且膳部向ふ附に□杯設けり
右三種の別□は全く酒の設けあるよし也、依て酒の設けは、上下とも産物相□はらせ産物
佃、其分残物かたくり（竹小箸）○即目、田々残雪白無涯日影嫩如
隔薄紗憶得旧時垂釣罷更深□月歩江沙、移松、鶴
骨虬枝幾十尋移栽窓外伴幽吟春花秋葉何須
要日に清陰夜々葉

十三日 申 晴漸薄陰 朝二十六度（摂氏氷点下3℃） 昼四十九度（摂氏9.4℃）

朝第五字時過出立（○辻の居残り足軽数十人）人馬差配役、火の廻り役兩人、町奉行朝上下着、
各所出役番所三ヶ所惣下座○

長坂村無人家野立小郷村觀音堂向かふにて、野立門前寺村無人家野立、右正面に富士山に似たる
小丘なり、

（洪民休）為すに南部富士と唱うる由、第十時半前、洪民町
洪民（しぶたみ）町旅宿え着、番所代官並びに人馬差配役出役

P8311089left

右代官午所尋問す、箱館定役山田九助なるもの出府道中の由にて尋問す面せり、昨夕領主より一
同く

贈り物の儀書面を以、申し聞る、第十一時過出立、右代官出役、巻堀（まきぼり）村余勢大明神
別当等小休み

（沼宮内泊）雪浦野立路傍しだれ松あり、高數十尋（*）林棄てそもそもは□し、第四時半沼宮内
旅宿へ着当所

代官並人馬差配役出役す町並悪敷旅亭是に随う、旅亭に米埒椿年孫□□□溪□□南湖五山竹各々

御仏武情菱湖文晁の書昼、六曲屏一双を立つ等の雪降り
あり、右代官尋問を不面、○偶得、陰雪連日雪霏（もや）に白尽、林

泉眼界餘飲見北陞春事盛落花深処有開花
積雪堆蹊日力微影露華輝思曾踏溪
幽徑尋涼空滿地清光踏月帰

十四日 酉 雨意乍微雪時々小飛、 朝四十六度（摂氏7.8℃） 昼五十七度（摂氏13.8℃）

*1.尋（長さの単位で約1.5m 手を左右に広げ指先端間の長さ）

（）内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の旧字体等です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。